

六郷特別出張所管内	
人口	男 35,092人
	女 33,653人
	計 68,745人
世帯数	35,918世帯
令和2年6月1日現在	

# 六郷わがまち

発行：地域力推進六郷地区委員会  
 編集：「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局：大田区六郷特別出張所  
 〒144-0055 大田区仲六郷二丁目44番11号  
 電話 03(3732)4885  
 FAX 03(3735)6249

六郷わがまち

検索

今、自然災害に見舞われたらどうします、準備はできていますか？

令和元(2019)年は自然災害の多い年でした。特に、台風19号は多摩川流域にも大きな被害をもたらしました。六郷地区でも多摩川氾濫か、という危機にさらされ、志茂田小学校などの水害時緊急避難場所や一時的な避難スペースである六郷地域力推進センターなどに、多くの人が避難をしました。

その時、地域や家庭では、どのような対応、行動がなされたのでしょうか。各町会・自治会では、それぞれ、防災活動に取り組んでいます。首都直下型地震の発生確率が高いため、災害の前提は地震災害であり、風水害対応は手薄になっていったようです。

台風19号襲来時の被害状況と課題を知るとともに、風水害も含めた自然災害に対する見直しが必要と思われまます。令和2年度には新たに防災ハザードマップも改訂発行されます。

これを機会に、風水害に着目して私たちはどのように対処したらよいか考えてみましょう。



防災啓蒙四点セット  
 本年8月全戸配布予定

## 台風19号襲来

### ① 気象情報と多摩川の水位

10月12日4時頃に大雨警報が、6時頃には洪水・暴風・波浪警報などが発令され、すべてが解除されたのは翌13日17時頃です。

田園調布での多摩川水位は12日22時30分にいつ氾濫が起きてもおかしくない計画高水位一〇・三五mを超え一〇・八一mの最高水位を記録しました。

六郷地区でも越水氾濫ぎりぎりまで水位が上昇し、六郷土手のJR鉄橋が架かっている場所には堤防部分が傾斜して低くなっているため土嚢で補強がなされましたが、大変危険な状態でした。



<JR鉄橋と堤防の傾斜>

### ② 避難状況

避難情報発令は、12日10時30分の高齢者等避難の警戒レベル3に始まり、20時には浸水災害発生の警戒レベル5が発令されました。

一方、12日9時頃には、出張所への問い合わせ電話が鳴りやまなくなり、地域力推進センターにも避難者が集まり始めました。17時に「キッズな」の子育て広場を提供してもらったが、廊下にならざる避難者であふれました。



<避難所の風景>

23時頃から避難者が帰り始め、13日8時30分に全員帰宅しました。六郷地区の避難者受け入れ人数は指定避難場所の志茂田小学校・志茂田中学校を始め、地域力推進センターなど七か所で合計四五九五名でした。各町会・自治会においても、取り組み内容は異なりますが、様々な活動を行っていました。

### ③ 被害状況

六郷地区では家屋損壊などの被害も発生し、約二十件の罹災証明書が発行されました。

河川敷にあるサッカー、野球、テニスなどの運動施設や公園などの冠水被害も甚大でしたが、3月には復旧工事も完了しました。

なお、区内では丸子川近くの田園調布四、五丁目を中心に大きな浸水被害が発生しました。



<多摩川河川敷の被害状況>



<多摩川緑地の復旧工事>

### ④ 自主避難で発生した課題

風水害の時、六郷地区で開設される水害時緊急避難場所は志茂田小学校と志茂田中学校の二か所だけです。各町会が防災活動拠点訓練を行っている他の学校は避難場所ではないため、自宅近くの学校に避難した人は自宅に戻るか他の避難場所へ行かざるを得ませんでした。これは風水害に対する避難場所の開設基準が震災時と異なっているためです。

令和2年度より、大田区では風水害と震災に対する避難所を区別せず、現在の地震災害避難場所九か所に統一しました。

### わが家の「マイ・タイムライン」を作ろう！

「マイ・タイムライン」とは、台風や大雨等の風水害時の避難に対する事前の準備や行動を、時間を追って整理した「個人の避難計画」のことです。

大雨や台風は、震災とは異なり、接近時期や規模を事前にある程度予測することが可能です。いざという時、あわてずに行動するために、いつ何を「か」を整理しておきましょう。

#### ステップ1

自分たちの住んでいる地区の水害リスクを知る

「ハザードマップ（風水害編）」で水害リスクを知り、「浸水実績図」で過去の洪水と地形の特徴を知ることです。多摩川が氾濫した場合、六郷地区は、殆どの地域が一階床上浸水で、多摩川に近い地域では二階まで浸水する危険があります。浸水継続時間も長く、土手に近接した地域では氾濫流で家屋倒壊等が想定されるなど、水害に弱い地域であることがわかります。



(出典：大田区ハザードマップ)

「浸水実績図」では、昭和60年7月14日の集中豪雨（一時間当たり九十㎜）の状況を示しています。浸水域は、ハザードマップ上の三〜五m未満（二階浸水域）と多くの部分で重なっています。また、この地域は六郷用水路が暗渠化する以前に経験した、大雨や台風襲来時の浸水域とも類似しているようです。

#### ステップ2

洪水時に得られる情報を知る

行政から得られる情報は、天気・河川・避難に関する情報、など様々です。これらは、時々刻々と変化します。最新の情報を収集する方法を知って、的確に判断することが必要です。

データ通信が出来るテレビでは、「NHK総合」でdボタンを押すと気象情報以外にも、河川水位情報や川の様子などが映像でわかります。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため三つの密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けましょう！

#### 《情報入手のポイント》

情報	気を付けるポイント	情報入手先
天気	・台風の大きさ、強さ、進路 ・雨量、雨の降っている地域（川の上流）、今後の見通し	気象庁 HP <a href="https://www.jma.go.jp/jp/typh/">https://www.jma.go.jp/jp/typh/</a>
河川	・近くの川の水位、上流の川の水位（今後の見通し）、氾濫の発生	川の防災情報 HP <a href="https://www.river.go.jp">https://www.river.go.jp</a> 気象庁 HP（同上）
避難	・避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）、避難所開設情報・交通の状況	大田区 HP <a href="https://www.city.ota.tokyo.jp/">https://www.city.ota.tokyo.jp/</a> 日本道路交通情報センター HP <a href="http://www.jartic.or.jp/">http://www.jartic.or.jp/</a>

(参照：大田区・国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所 HP)

#### ステップ3

「マイ・タイムライン」を作成する

ハザードマップを開いて、具体的にあなたの情報をチェックシートに記入してみましょう。

#### 《チェックシート》

浸水想定区域図でチェック

あなたの住んでいる場所の浸水深さは？ \_\_\_\_\_ m

あなたの住んでいる場所の浸水継続時間は？ \_\_\_\_\_ 時間

あなたの住んでいる場所は家屋倒壊等氾濫想定区域ですか？  
 はい  いいえ

家庭の状況チェック

車  有 ( )

ペット  有 ( )

持病薬  有 ( )

避難に支援が必要な人（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦）  
 有 ( )

避難先のチェック（あなたが避難する場所）

指定避難場所 ( )  
移動時間：約 \_\_\_\_\_ 分

親戚・知人の家 ( )  
移動時間：約 \_\_\_\_\_ 分

その他 ( )  
移動時間：約 \_\_\_\_\_ 分

●大田区のホームページ（HP）より、「風水害対策」の「マイ・タイムライン」を作った方が一に備えましょう。を検索して、実際に「マイ・タイムライン」作ってみましょう。

●●家のマイ・タイムライン（作成例）		
災害発生までの時間（目安）	行政から発信する情報	主な備え（マイ・タイムライン）
3日前	台風予報・台風に関する東京都の気象情報	●今後の台風を調べ始める。
2日前	大雨注意報・洪水注意報	●避難するときに持っていくものを準備する。
1日前	大雨警報・洪水警報	●住んでいるところと上流の雨量を調べ始める。 ●川の水位を調べ始める。
半日前	氾濫注意情報	●避難しやすい服装に着替える。
5時間前	氾濫警戒情報（警戒レベル3）	●避難しやすい服装に着替える。
3時間前	氾濫危険情報（警戒レベル4）	●安全なところへ移動を始める。 ●避難完了
0時間	氾濫発生情報（警戒レベル5）	

(出典：わが家の防災チェックBOOK)

### 風水害に対する準備

- ・ハザードマップで自宅周辺の被害想定を確認しておくこと
  - ・事前に了解を得て、安全な地域に住む親戚や知人の家などを避難先に設定して避難経路を複数確保しておくこと
  - ・非常持出品・非常用備蓄品の準備をしておくこと
- (参照：わが家の防災チェックBOOK)

#### 編集後記

本号を編集した時期は「緊急事態宣言」が発出され、新型コロナウイルス感染が拡大して行く真ただ中でした。このような時に集中豪雨や直下型地震が発生したらどうなるのだろうか、と強い不安に駆られ、複合災害に対する準備の必要性を強く感じました。

本号が発行される頃には新型コロナウイルス感染が収束方向に向かっていることを願うばかりです。

お知らせ  
11月1日発行予定の次号は、新型コロナウイルスの影響により取材活動ができないため発行を見合わせます。